

天白川 川づくり検討会（第2回）

○天白川川づくり検討会

「天白川をもっといい川に」を合言葉に、治水と環境（自然環境、人の利用、景観）の両立する川の計画をつくるため有識者、地域の代表者による意見交換を実施した。

会議概要

■日時 令和4年10月26日（水） 14時00分～15時50分

■場所 天白区役所 講堂

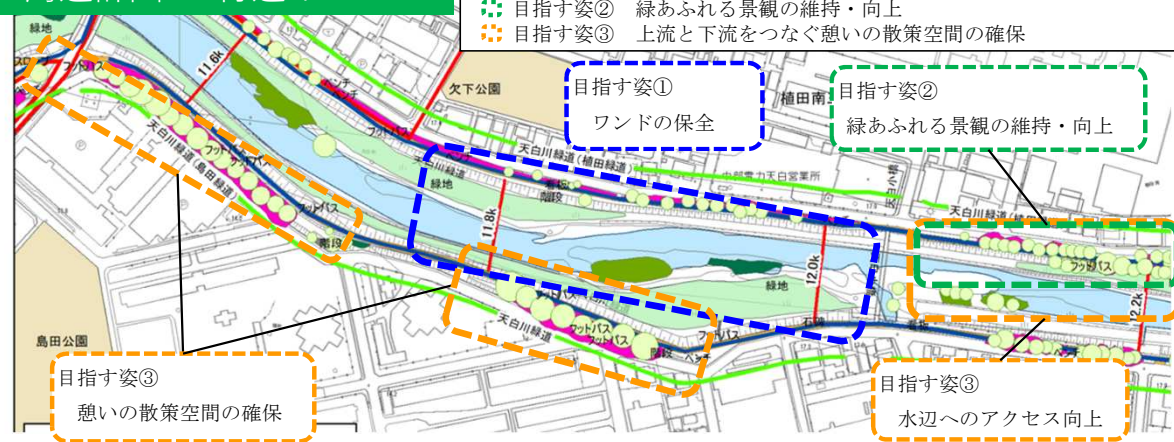
■検討会構成メンバー

有識者、区政協力委員長、天白区を住みよくなる会、天白・川辺の楽校、名古屋市天白区、愛知県河川課、愛知県尾張建設事務所（当日参加者計34名）

■有識者

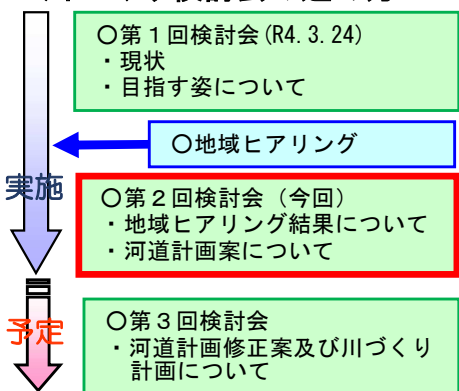
吉村 伸一（株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役）
 長谷川 明子（ビオトープ・ネットワーク中部会長）
 林田 寿文（土木研究所自然共生研究センター主任研究員）
 河野 誉仁（土木研究所自然共生研究センター専門研究員）
 坂本 貴啓（東京大学地域未来社会連携研究機構 特任助教）

河道計画12k付近イメージ



検討会議での主な議題

《川づくり検討会の進め方》



愛知県が作成した河道計画（案）について意見交換を行いました。

《河道計画に対する地域の意見》

- ・左岸11.9kのワンドは生き物の観察などに使用しており、保全する方針は良い。
- ・一方、土砂の堆積、水の減少、樹木の繁茂などの問題がある。
- ・現状、区間全体的に高水敷に草が繁茂し、通行・利用ができない。
- ・高水敷へ降りるための階段の整備は良い。加えて水辺にも近づく場所を整備してほしい。高水敷については自転車も通行できるようにできないか。
- ・右岸13.2kにある川のビオトープは現状を保全する計画とあるが、水質が悪い、ごみが多いなど問題があり、改善が必要ではないか。
- ・フェンスを撤去する場所や樋管吐出部を渡れるようにするなど改修箇所が分かるように図面等を提示してほしい。

《有識者からのアドバイス》

- ・ワンドは川幅が広がる位置にあるため、土砂の堆積・樹木の繁茂が生じやすい位置にある。人の手で管理することが必要なため、住民の方と協働で環境管理している事例もある。
- ・自然の部分、草刈する箇所、利用する箇所など用途によって対応を変える。土系の舗装なども含め対応を考えるとよい。
- ・地域住民での管理が難しい部分は、河川公園として維持管理する方法もある。

《その他有識者の意見》

- ・堤防高については、計画堤防高まで下げることが考えられる。堤防が高いと一概には言えない。
- ・基本方針をしっかりさせること（例えば、堤防天端を広げ休憩場所を設けることやフェンスを撤去するなど）。そのうえで、実施できる条件やその区間を関係者で議論・協議を進める必要がある。
- ・地域の子供たちから「自然豊かな川」が良いとの意見があったことを踏まえ、保全する動植物を明確にするるとよい。
- ・魚道については、生息する魚種を踏まえて検討するとよい。
- ・川づくり計画には維持管理の観点を加えた方がよい。
- ・川幅水深比を大きくしすぎると土砂が堆積することもある。緩傾斜の形状をうまく活用するとよい。

状況写真

